

第7回当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 会議要旨

- 1 日 時 平成27年10月16日(金) 14:00~15:00
- 2 場 所 当別町役場 1階 大会議室
- 3 出席者 山田委員長、川村委員、中家委員、南部委員、笠松委員、伊藤委員
田辺委員
- 4 説明員等 二木部長、長谷川課長、小畑係長、樺澤主事
- 5 傍聴者 5名
- 6 会議要旨
議題 答申について
参考資料について説明ののち、資料1に基づき、第6回委員会での委員意見の反映状況について説明。

< 議題に対する質疑等 >

【中家委員】

- ・ 前回提案させていただいたオリジナルのプロジェクトに関しては、インパクトのある広告的な表現と、総合戦略に記載する表現には差異があるので、内容については上手にまとめていただけたと思っている。
- ・ 総合戦略としてまとめる作業が終わってそこで燃え尽きることなく、総合戦略に記載されていることがしっかりと遂行されていくことを、約束事として意識した中でこの戦略が示されていくものだと考えている。

【笠松委員】

- ・ 総合戦略の中身については、非常にまとまった形になっていると思っている。今後の推進管理に関して、この委員会からの答申後、どのような手順で策定されていくのか説明していただきたい。

【事務局】

- ・ この委員会からの答申をベースに、議会からの意見、町内関係団体や住民からの意見等を反映させ、そこに町長の意向も加えながら、最終的に町の政策決定の場である政策調整会議において、当別町の総合戦略として決定をしていくことになる。

【笠松委員】

- ・ その手順でいくと、総合戦略が最後決定されるのはいつ頃になるのか。

【事務局】

- ・ 平成27年10月中に策定し、内閣府に報告する予定でいる。また、このようなスケジュールの関係上、町長との打ち合わせはこの委員会に並行して行っているところであり、この委員会での議論をベースとしながらも、既にプロジェクトの順番の

入れ替えや、プロジェクト名の変更等が出てきていることを了承願いたい。

【田辺委員】

- ・人口ビジョンのP 4 3について、「結婚・出産・子育てをしたい女性の希望を叶えるための環境づくりとしては・・・」という表現があるが、これは町民アンケートの結果であって、子育てと仕事が両立できる環境整備は女性に限定されないものなので、表現を修正したほうがよいのではないかと思う。
- ・同じく人口ビジョンのP 4 3について、「結婚し子どもを持つが、結婚や出産を機に退職し、子育て後に再び仕事を持つ」という割合はあまり変化がなく、むしろ女性の理想や、男性のパートナーに望む生き方としての「結婚し子どもを持つが、仕事も続ける」という割合が、現実の状況では減少し、「結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける」「結婚せず、仕事を続ける」の割合が大きくなっているという部分に焦点を当てた記載をしたほうが、よりわかりやすい表現になるのではないか。

【事務局】

- ・表現の仕方については委員のご指摘のとおり修正を行う。

【田辺委員】

- ・総合戦略のP 2 4のK P Iについて、「高齢者および有償ボランティアによる雇用等創出数」とあるが、この考え方がよくわからない。

【事務局】

- ・プロジェクトの本文記載部分にあるとおり、福祉分野における有償のボランティア事業の推進を掲げているところであり、それを受けてのK P Iとして記載をしているところ。このプロジェクトに馴染む指標であるかどうかについては、改めて担当部局と調整させていただく。

【田辺委員】

- ・雇用という考え方が馴染むのかも検討していただきたい。有償ボランティアを雇用するという考え方でよいのかどうか。

【事務局】

- ・ボランティアと雇用という表現が馴染むのかもどうか、担当部局と調整させていただく。

【南部委員】

- ・総合戦略としてまとめた部分についての意見はないが、戦略を立てて答申することが目的ではなく、この戦略がどのように具現化されていくのかというところが一番大事なことなので、現在当別町が抱えている課題を自覚し、それを誰が、いつまでに、どう解決していくかを、町内外にどうプロモーションしていくのかということ、後半の委員会では考えていたところ。総合戦略は、町民に対してコミットしていくものとなるので、町民目線で考えれば、実際の生活において、良い方向感で変わっていくことを実感できるかどうか、あるいは事業者の立場で考えれば、どう

事業化されていくのかというところを感じながら、戦略の期間である5年間を過ごしていくことになる。今後は、町内に対する生活の変化の実感という部分でのプロモーションは必要だが、外の力を借りて町のブランドを構築していくために、町外に対するプロモーションも強化していく必要がある。そうしなければ、当別町に目をむけてくれないし、事業化が見えてこなければ、町が必要としているスペシャリティが外から入ってこない。そういったところを現時点からすでに意識して実行していかなければいけないと強く感じている。

【事務局】

- ・本日お配りした答申書（案）については、第6回目までの委員会の中で出された意見について記載しており、本日の協議の中であったような、推進管理を含めてどのように具現化していくのかといったご意見についても、答申書の中に意見として反映すべきものだと思っているので、追記した形でまとめさせていただく。

（以 上）